

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

保護者、子ども、教職員のアンケートをもとに、学校では令和7年度の活動を自己評価し、次年度の改善案を作成しました。さらにこの一連の活動を、学校評議員のみなさんに「学校関係者評価」をしていただきました。その結果、以下のような評価をいただきましたので報告いたします。学校では、よりよい教育をめざし、保護者・地域の皆様と力を合わせて進んで参ります。次年度もご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

1 本年度の重点目標

子ども一人一人の笑顔があふれる学校の創造「自分からかかわる」～笑顔 キラめく 前田の子～

2 本年度の経営方針

「伝える力」「受け取る心」の育成 学校全体で子ども一人一人に「かかわる」学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
豊かな心の育成・健やかな体の育成	〈重点目標〉 重点目標「子ども一人一人の笑顔があふれる学校の創造」の具現化に努めている。	A	【継続】①教育活動全体を通して、教職員が協働して目標の具現化に努める。②一人一人が安心して過ごせる学級を基盤に、お互いの良さががんばりを認め合う活動を増やすことで、自己肯定感や有関感を高める。③キラメキ活動(異学年交流)や運動会、学習発表会などの行事でも、一人一人が活躍できる場を大切に、教え合い、伝え合いの場を設けることで、相互承認の感度を高める。	A	A
	〈挨拶〉 挨拶することの大切さを伝え、友達や先生、地域の人に進んで挨拶をする子どもを育てている。	B	【継続】①学級活動や道徳の時間なども含め、日常的に挨拶を意識させるための手立てを充実させる。②係や委員会での取組など児童の自発的な活動となるように支援する。	B	A
	〈自主〉 学級活動や行事、児童会活動を工夫することで、意欲的に取り組み、楽しさや達成感を感じながら活動する子どもを育てている。	A	【継続】①学級の係活動、学年の集会などを自分たちで計画し、実行する経験を数多く積ませる。②委員会の活動内容を見直し、達成感を味わわせられるような関わりや支援を続ける。③パートナー校とも連携しながら、「さっぽろっ子自治的な活動」を意識した取組を進める。	A	A
	〈責任・思いやり〉 学級・学年での活動や委員会・クラブ活動などの中で、みんなをリードしたり相手の立場に立って考えたりする子どもを育てている。	B	【継続】①活動を企画したり進めたりすることで相手を意識し思いやりをもって行動する、また、してもらったことに対して「ありがとう」と素直に感謝する、といった活動や経験を積ませる。	A	A
	〈体力向上〉 体育では適度な運動量の確保に努め、また、休み時間の遊びを奨励したり、運動する機会をつくったりするなど、子どもの体力の向上に努めている。	B	【継続】①全学年で新スポーツテスト(3種目)を行い、記録化する。目標をもたせて取り組む。②ゲストティーチャー活用や職員研修などを通して体育の授業改善(運動量の確保)を図る。③冬期間の運動の場(ストラックアウトやポッチャ)を設定する。④自然と体を動かせるような環境づくりをする。	B	A
	学校関係者評価委員による意見	・全体的に厳しい自己評価と感じるが、より上を目指していく強い表れととらえている。日常の挨拶は十分に定着しているように感じる。 ・評価項目すべての点で伸び伸びとした明るさが感じられた。「6年生を送る会」では、全体構成と学年ごとの適切なメッセージが企画されていて、優れた教育効果の達成感を感じた。 ・運動会では、チームとして競い合う場面もあってよいのではと思う。			
学力の育成	〈日常授業〉 学校は、分かる・できる・楽しい授業づくりの充実に取り組んでいる。	B	【継続】①児童自らが問いをもち、課題解決したくなる、他者へ伝えたいとなる学習展開の工夫、教材教具の工夫に努める。②友達と共同して課題解決に取り組む中で、お互いの考えの良さに気付いたり、認め合ったりする場の設定を工夫する。	B	A
	〈日常授業〉 授業UDの手立てやICT機器の効果的な活用を意識しながら、確かな学力を育むよう努めている。	B	【継続】①ICT機器を使った学習指導の研鑽を積み、自分の考えをもつ、交流するなど様々な場面に応じてICT機器の活用を図る。②誰もが取組みやすいように、また、個に応じた学習支援となるように、特別支援教育の視点を取り入れた「授業UD」の手立てを取り入れる。	B	A
	〈学習習慣〉 家庭での学習習慣(家庭学習など)が身に付くよう取り組んでいる。	B	【継続】①低・中・高学年のねらいや取り組み方について明確にし、「繰り返しドリル」なども活用しながら、毎日継続して取り組む習慣づくりと学習の定着に努める。②中学年から高学年にかけて、自主学習(自分で考えて取り組む学習)を計画的に進められるように支援する。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	・学力意欲を高めるための、「分かる」「できる」「楽しい」授業づくりが実践されている。先生方の自ら学ぼうとする意欲の高さが重要で、「何を、誰に、どのように」と、視点が明確になっているので、子どもたちにとっても分かりやすい。 ・興味から「問い」が生まれ、答えが見付かると「次の問い」が生まれる。そのつながりがロジックになっていく。興味は個性である。家庭で形成された個性が学校教育で磨かれ、生き生きと学力が育っていると思う。			
特色ある学校教育	〈読書〉 朝読書の定着を図ったり、読書する機会をつくったりして、子どもが読書に親しむように取り組んでいる。	B	【継続】①全校一斉の朝読書を実施し、進んで読書をする子どもを育てる。②図書ボランティアによる読み聞かせ(月1回)を継続する。③本に親しむ機会を増やしたり、読書意欲を喚起する取組を行ったりするため、より一層、開放図書館との連携を図る。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	・読書習慣はDXに必要な基礎力を養う大切な習慣だ。読解力、集中力、創造力を養うのに有用である。言語力と自我意識は共に10歳前後に形成され、コミュニケーションや学力の基礎となる。 ・いろいろなジャンルの本を率先して読めるようになると興味の幅も広がる。家庭への波及もなかなか難しくなってきた。			
信頼される学校の創造	〈教育相談〉 子どもや保護者の声を聴き、親身に相談にのったり適切に対応したりしている。	A	【継続】①子どもたちの生活の様子、「シャポテンログ」への書き込みなどから困りを把握し、対応する。②児童への年3回のアンケートや聴き取りの内容、保護者からの声などを多くの教職員で共有し、迅速かつ適切に対応する。	A	A
	〈いじめ・不登校対策〉 命を大切に指導を通して、いじめ及び不登校を未然に防ぎ、適切に対応するために取り組んでいる。	A	【継続】シャポテンログによる毎朝の健康調査、年2回の学校児童アンケートや春に行う自尊感情アンケート、札幌市の悩み・いじめアンケートなどを活用し、事前防止のための計画や対応に、チームとして取り組んでいく。②道徳の学習やインターネット・SNS利用に係る出前授業などを通して、身の回りで起きうる具体的な事象について考えさせる指導を行う。	A	A
	〈情報発信〉 お便りや「すぐる」配信、学校ホームページ等を活用し、子どもや学校の様子を伝えている。	A	【継続】①週一回、学校ホームページで子どもの活動の様子(写真)をお知らせする。②子ども理解、支援のため、保護者との電話や家庭への訪問による情報の共有を継続する。③学校からのお知らせや案内、緊急連絡は連絡ツール「すぐる」を有効活用する。	A	A
	〈教育力活用〉 保護者ボランティアや北海道科学大学等、地域教育力を活用したり専門的な人材を活用したりしながら体験的な教育活動を行うよう努めている。	A	【継続】①興味関心を高めたり感性を豊かにしたり、学習を深めたりするための専門的な人材の活用(ゲストティーチャー・出前授業や施設見学・体験学習)を継続する。②保護者ボランティア(今年度はスキー学習)の協力を積極的に得ながら安全な学習の推進を継続する。	A	A
	〈校内安全〉 適切に生活指導したり、校舎・環境を点検したりして、子どもが校内で安全に生活を送れるよう事故防止に努めている。	A	【継続】①学校生活のルールを定期的に子どもたちと確認したり、状況に応じて見直したりしながら、継続的に指導する。②登下校時、休み時間には、玄関前や校内を見守り、児童の安全確保に努める。	A	A
	〈校外安全〉 危機情報の共有に努めたり、危険個所について子どもに注意喚起したりして、子どもが校外で安全に生活を送れるよう事故防止に努めている。	A	【継続】①安全情報等を「すぐる」配信で速やかに発信し、保護者との情報共有に努める。②PTAの登下校安全見守り、スクールガードリーダー、交通安全指導員、スクールゾーン実行委員会等関係機関と連携し、事故防止に努める。	A	A
	学校関係者評価委員による意見	・いじめと不登校の少なさが、この地域と学校のすぐれたこの地域の包摂性を証明している。 ・家庭環境の多様化が、睡眠、食、時間の使い方など生活習慣の相違を生み、子どもたちの育ち、成長に大きな影響を与えている。ますます個別の対応が必要となっていく。			

自己評価の観点 A:達成できている B:もう少し C:達成できていない
学校関係者評価の観点 A:適切に評価している B:少し適切ではない C:適切ではない